

小樽利礼航路年表

1883 (明治 16) 年	北海道庁はこの年設立された共同運輸会社に補助金を与えて、「国後諸島択捉及び北見地方離島に汽船を航せしむ」ことを命じた。
1885 (明治 18) 年	増毛まで延長されていた補助航路は、宗谷・礼文島・利尻島まで延長された。
1899 (明治 32) 年	北海道庁命令航路として小樽天塩線と稚内網走線が新たに開設された。
1900 (明治 33) 年	逋信省管轄だった小樽稚内線が内務省管理の道庁命令航路となり、小樽利礼への冬季間もあわせた通年の定期航海が定められた。鬼脇、鷺泊に寄港する。
1913 (大正 2) 年	利尻島沓形村、礼文島船泊村が新たに小樽稚内線の寄港地に加えられた。
1915 (大正 4) 年	小樽稚内線と小樽天塩線が合併し、小樽稚内線甲線・乙線と改正され、甲線は日本郵船が受命して島嶼から治岸へ、乙線は藤山要吉が受命して甲線とは逆の航海を行った。これにより、仙法志村が新たに寄港地に加えられた。
1921 (大正 10) 年	日本郵船が、補助航路である小樽稚内線甲線の経営を終了した。甲線航路を継承し受命するため、小樽に北海郵船が設立された。
1922 (大正 11) 年	音威子府まで達していた鉄道は、オホーツク海岸を經由する宗谷線 (旧天北線) が稚内まで開通し、小樽・稚内間の新たな交通手段として開通した。
1926 (大正 15) 年	音威子府から天塩線 (現宗谷線) が稚内まで開通した。
1936 (昭和 11) 年	丸一水産 (翌年から稚内利礼運輸株式会社と改称) が道庁補助航路として稚内・鷺泊・香深間の稚内利礼航路の運行を開始した。
1939 (昭和 14) 年	藤山海運所有の「樺太丸 (570t)」が沓形の栄浜海岸に座礁した。
1941 (昭和 16) 年	稚内利礼運輸株式会社、稚内・船泊・沓形間の補助航路を受命した。
1945 (昭和 20) 年	稚内利礼運輸株式会社、稚内・鬼脇・仙法志間の補助航路を受命した。これにより、利尻礼文両島の6自治体すべてが稚内と連絡された。
1954 (昭和 29) 年	北海商船、藤山海運の小樽利礼航路経営悪化により礼文丸を引き継ぎ、経営にあたる。
1956 (昭和 31) 年	小樽利礼航路に「おたる丸」就航。
1968 (昭和 43) 年	小樽利礼航路に「新おたる丸 (446t)」就航。
1970 (昭和 45) 年	稚内利礼航路に最初のカーフェリー「第一宗谷丸 (537t)」が就航した。
1976 (昭和 51) 年	新おたる丸、猛吹雪の航海で礼文島金田ノ岬沖で座礁した。座礁した新おたる丸にかわって、「第三利礼丸 (225t)」、「第五むろと丸 (325t)」が就航した。
1981 (昭和 56) 年	小樽市、利礼3町の強い要望を受けて、カーフェリー「おたる丸 (998t)」が就航した。
1982 (昭和 57) 年	経営の圧迫からカーフェリーおたる丸にかわって、「第一宗谷丸 (537t)」を稚内利礼航路から用船し就航した。
1988 (昭和 63) 年	「第二宗谷丸 (988t)」が就航した。
1993 (平成 5) 年	小樽利礼航路、旅客貨物の減少から生活航路としての役割を終え廃止された。